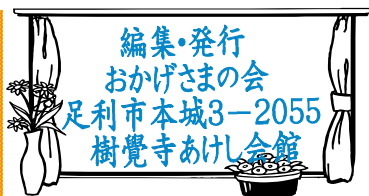


# おかげさま



拝読 浄土真宗の教え

新たな年を迎える節目にあたり、いま一度みずからを見つめなおし、確かな足どりで人生を歩みたいものである。

蓮如上人は年の始めに、勧修寺村の道徳に次のように仰せになった。

道徳はいくつになるぞ

道徳念仏申さるべし

一つ年を重ねるにあたり、あらためて念仏を勧められたのである。

一年また一年と、年を重ねることは、決してあたり前のことではない。私自身にも、やがてこの世の縁の尽きるときがくる。阿弥陀如来は、はかなき私たちを哀れみ慈しんで、念仏せよとはたらきかけておられる。

いま私たちは、真実の教えに出あい、念佛申す身となって、大いなる安心のなかに人生を歩んでいる。

新たな年の始まりを、念仏とともに迎えることは、何よりも大きなよろこびである。



ばたばたとしている間に年が明けます。こ

何事も有

この半年次々といろいろな事が度重なり、時間だけが勝手に過ぎて行きました。こんなこともあるんだよ、でもそれは突然の稀なことではなくて、ごく当たり前のこと、何があっても不思議なことではないことと親鸞聖人は残されています。

出遇いの喜び、別れの辛さ、悲しみすべて感受出来る我が身の‘ありがたさ’自分だけでなく、ご縁ある方々が共感してくださる‘ありがたさ’ほん

とうに ‘おかげさま’ です。

ある方がよく「辛さ、悲しさ、寂しさ、孤独感から人は優しさ、思いやりの心が生れ、人として成長、広い寛大な心をもつことができるんですよ」とお話しくださいます。辛さ、苦しさが解らなかつたら、優しい思いは生れないと共感しています。

先日、朝のラジオで ‘別れ’ から大きなことを知り、 ‘別れ’ によって人は生きる力をもつことが出来る。「人は生れてきたその時出遇い、同時に別れによって生きる力を備え、歩き出す原動力をもつことになる」と。そして、 ‘別れ’ は終わりではなく、始まりであると。伊集院 静さんが「別れの力」という題で本にしていることを知りました。

震災、事故、多くの方々がたくさんの ‘別れ’ と出遇いました。 ‘別れ’ にめげることなく、少しずつ歩み出していただく力、生きる力として。私も一緒に。

5歳の孫が、今何かにつけ「お母さんと離れたくない」と言います。この子もいつかは別れの意の大きさを知る時が来ることでしょ



爺 婆 孫 孫



と多彩な作戦行動。大人の負け。

タイプは違うが、どちらも目が離せない。周りの大人をてんでこ舞させるにたる行動力。的確な状況判断





年頭の辞 門主 大谷光真さま  
光寿無量

お念仏とともに、新しい年を迎えました。そして、東日本大震災から一年十ヶ月が過ぎました。私にとっては、親鸞聖人七百五十回大遠忌と大震災を切り離すことができません。

被災された方々はそれぞれに苦しみや課題を抱えていらっしゃると思います。まず、支援や復興が大事ですが、日本の国に、さらには地球上に住むものとして、共通の課題も考えたいと思います。意識するとしないとにかかわらず従っていた価値観、ものの考え方は。例えば、科学技術の進歩や経済の競争は人々の生活を向上させ、幸せを高めるという考えです。当面の課題、狭い範囲の課題を解決するには、科学技術や経済力が有効ですが、そこにとどまると、かえって見落とすことがあります。それは人間の欲望には限りがなく、能力には限りがあること、そして大自然との調和です。これは仏教とも深く関わる課題です。

富士山の美しさも風光明媚な山も谷も火山と地震の結果です。人間が住む前から、日本列島は地殻変動を繰り返してきました。都合のよいところだけを取るわけにはいきませんし、どこに住むか、どこを旅するかは、個人の選択のように見えて、実際は、さまざまの社会的・個人的な縁の結果です。被災や厳しい生活を個人の責任にしたり、天のはたらきに帰するのは無理があります。一時しのぎの節約や節電に終わらず、世の中の価値観を転換し、一人ひとりの節度ある生き方と持続可能な社会の在り方を考えたいと思います。

明石狸

「地震・雷・火事・親父」。昔から世のなかの怖いものの代表として、この四つが怖れられてきました。そればかりか、雷などは、恐れが畏れにまで進み、神として怖れ崇められてきました。特に北関東では、カミナリ様、雷様と、雷電神社を建て、怖れるとともに親しみを込めて呼んだようです。

本堂の屋根の鬼瓦も修理を終えて、新たに避雷針を装備してお目見えです。南北の鬼さんに、それぞれ一本づつ角が増えました。参詣のおりに見あげていただければと思います。

後日本堂を護った鬼さんも展示できればと思っています。

# あけし あれこれ

## イノシシ 再来



半年以上やってくるのがなく、助かっていたのですが、またイノシシが再来しています。近県の山々、里を周遊して戻ってきたのでしょうか。いのししも生きるために一生懸命なのでしょうが、私たちも進入防止と修理と切実です。何とかどちらにも良い方法ないでしょうか。いつか新聞に、どうもイノシシは彼岸花を嫌うようですと書いて有りました。確かに根に毒性があるので、食べはしないと思いますが、効果はいかかなものかと思います。

イノシシの天敵はなんといっても人間でしょう。捕まえたら食べちゃうの



ですから。

まだ出会ったことのないイノシシの図 描いたのは、佐藤桜耶（5歳）